

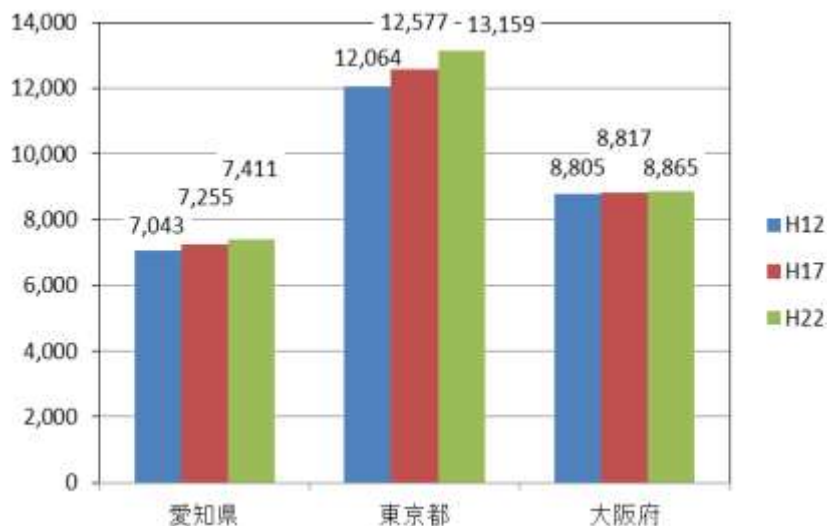
本県の社会経済及び環境の状況

1 本県の社会経済の状況

(1) 人口

- ・ 愛知県の人口規模は、東京都の6割弱、大阪府の8割強にあたる。
- ・ 今後、徐々に県人口は減少し、高齢化に伴う生産年齢人口の減少が予想されている。
- ・ 一方、核家族化の進展や高齢者を始めとした単身世帯の増加が予想されることから、世帯数については当面増加ないし横ばい傾向になると見込まれる。

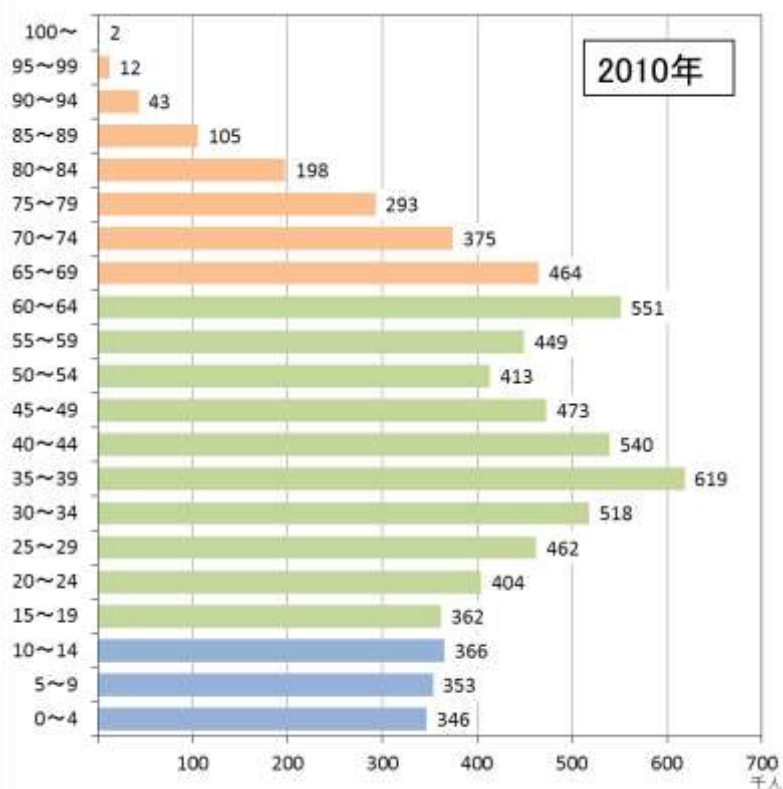
人口の推移（実績）



(平成 22 年)	全国	愛知県	東京都	大阪府
人口シェア	—	5.8%	10.3%	6.9%

(出典：国勢調査(総務省))

愛知県の人口ピラミッド（平成 22 年）

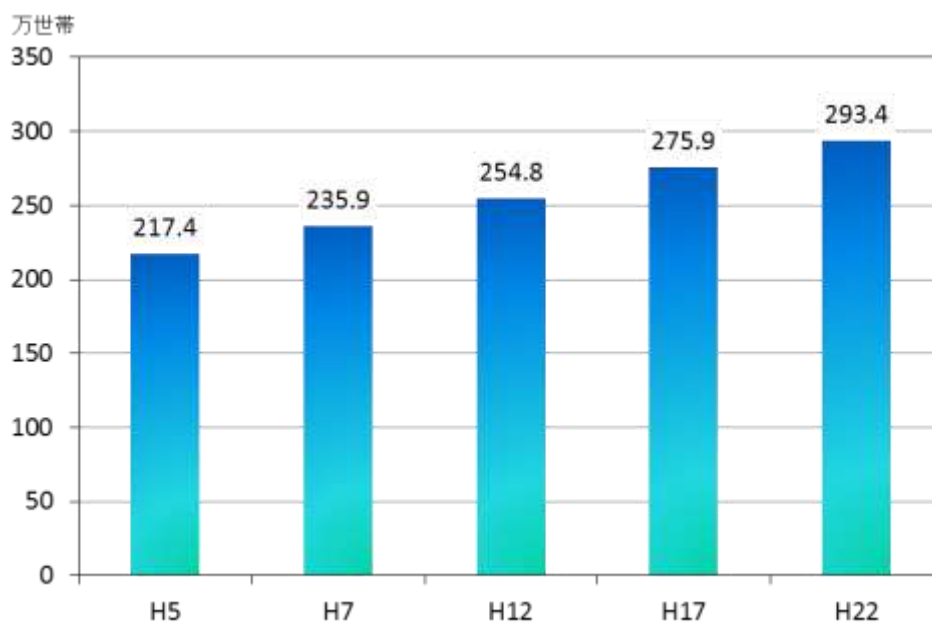


愛知県の年齢構成の推移



(出典：国勢調査(総務省))

愛知県の世帯数の推移

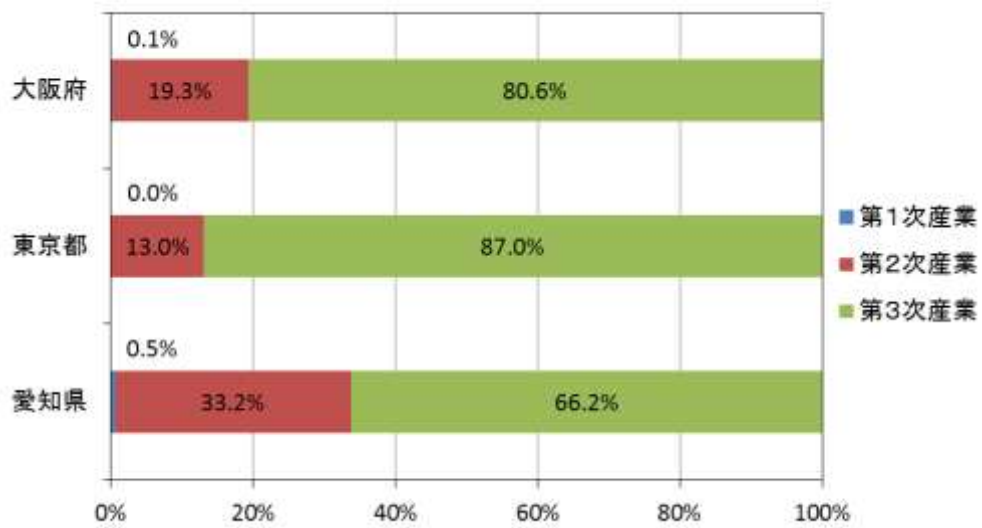


(出典：国勢調査(総務省))

(2) 産業

- 愛知県の産業構造は、第三次産業が過半数を占めているものの、製造業を始めとする第二次産業が約3分の1を占めており、製造業に特化した地域となっている。なお、第一次産業の割合は低いが、大都市地域の中では高い生産額を有している。

産業構成比率（平成21年度）

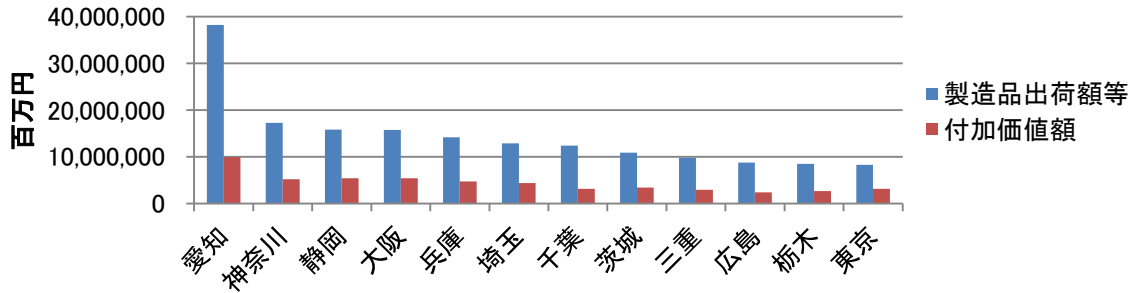


(出典：県民経済計算(内閣府))

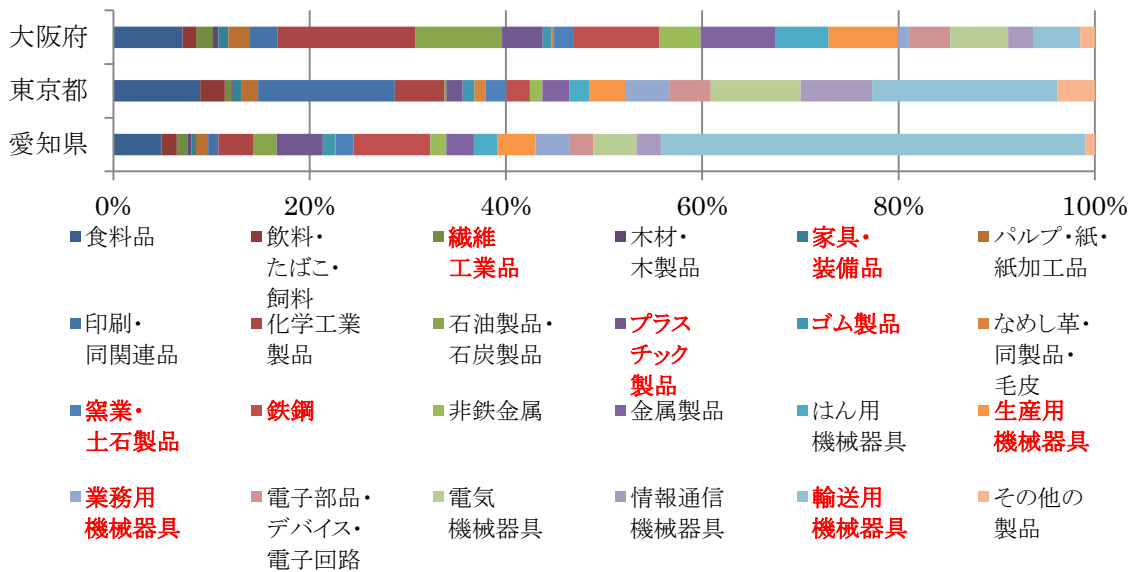
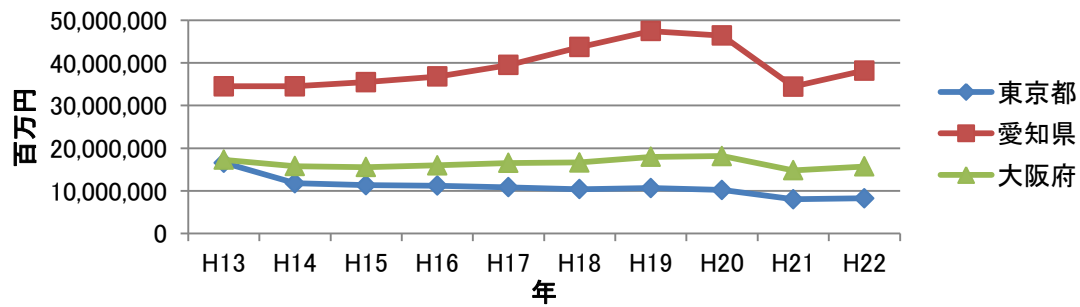
(工業)

- ・ 愛知県は、製造品出荷額等（38兆2,108億円、平成22年）が全国一（昭和52年以降34年連続して1位）の工業県である。
- ・ 愛知県の製造品出荷額等を業種別に見ると、「輸送用機械」の割合が高いほか、24業種中9業種が全国シェア1位である。

製造品出荷額等の上位都道府県（平成22年）



製造品出荷額等の推移（上）と業種別構成（平成22年、下）

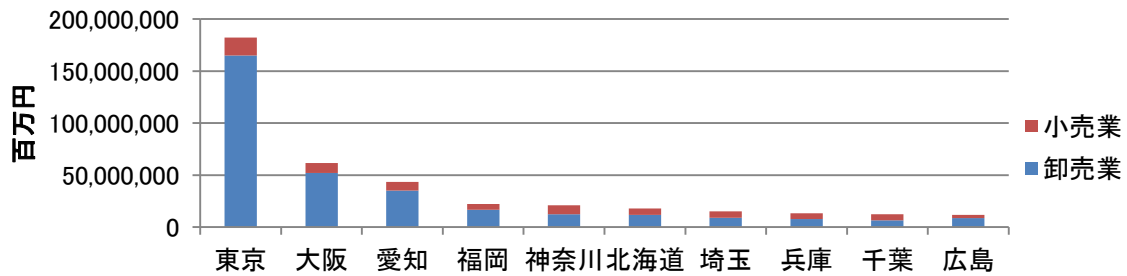


注) 凡例赤字は全国シェア1位
(出典：工業統計(経済産業省))

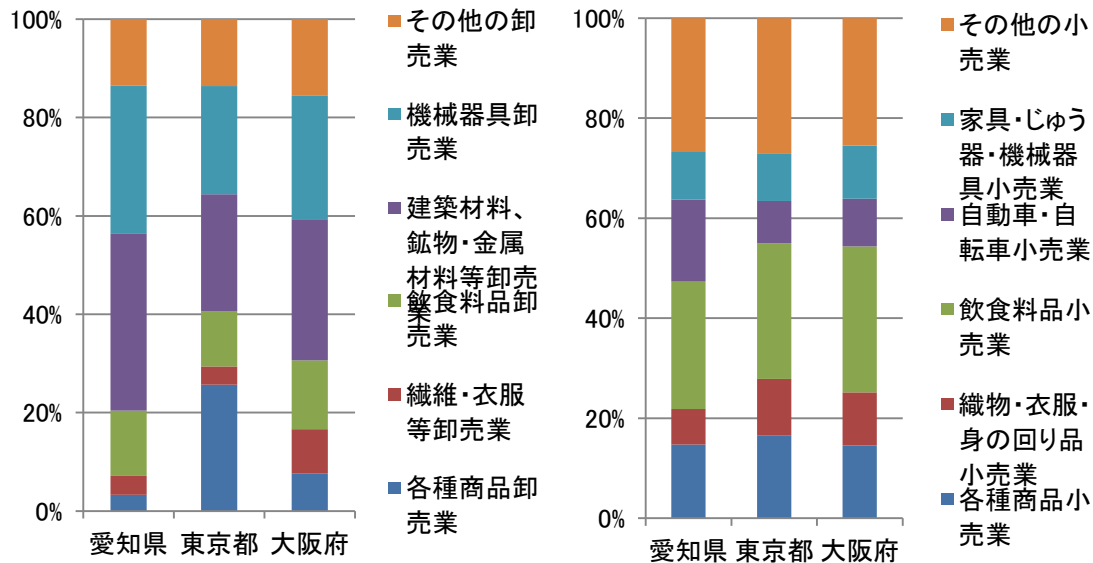
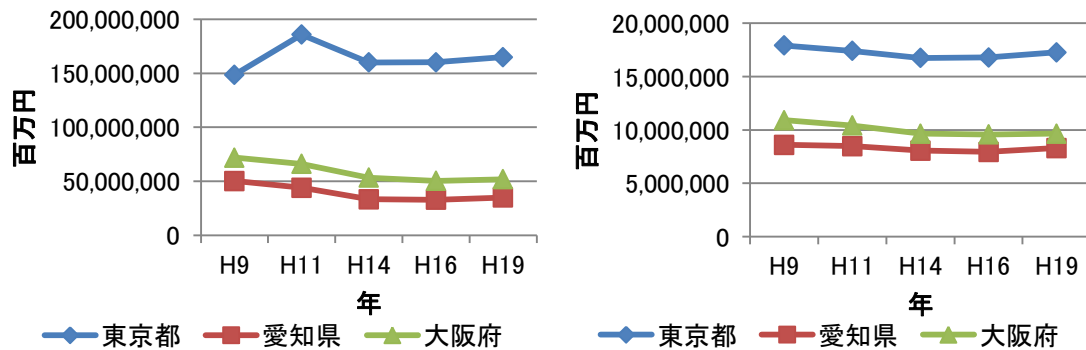
(商業)

- ・ 愛知県の年間商品販売額（43兆4,432億円、平成19年）は全国3位で、東京都の2割強、大阪府の約7割にあたる。
- ・ 愛知県の年間商品販売額の産業分類を東京都、大阪府と比較すると、卸売業では「機械器具」「建築材料、鉱物・金属材料等」の割合が高く、小売業では「自動車・自転車」の割合が高い。

年間商品販売額の上位都道府県（平成19年）



卸売業販売額(左)及び小売業販売額(右)の推移と内訳（平成19年）

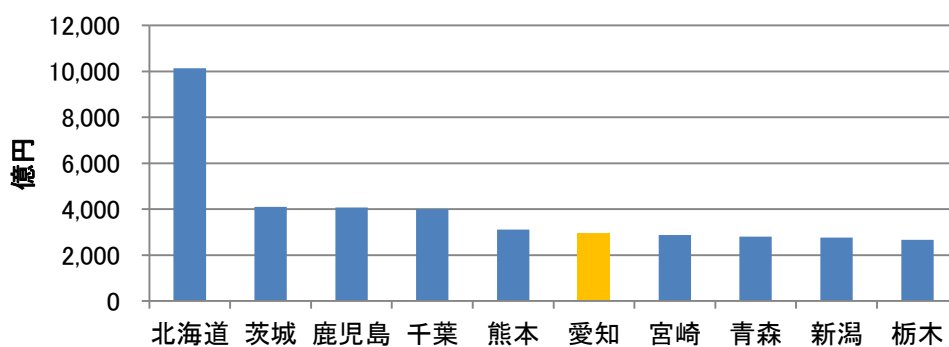


(出典：商業統計(経済産業省))

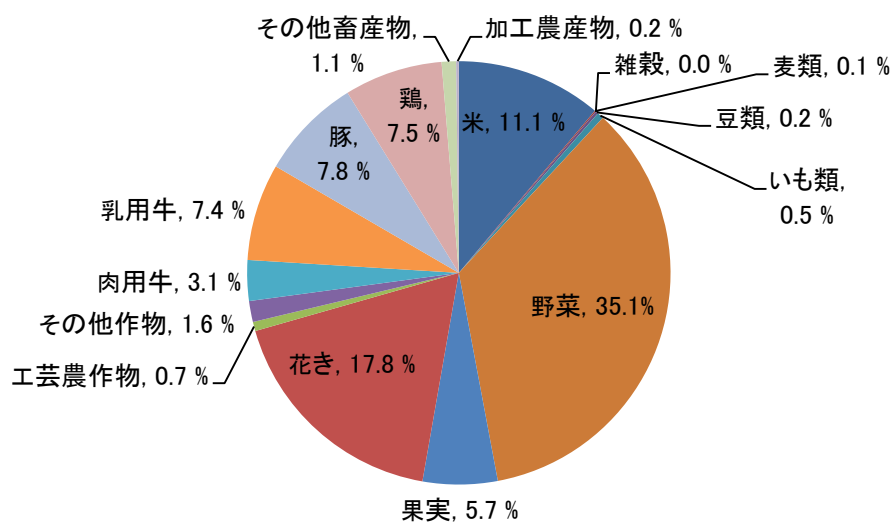
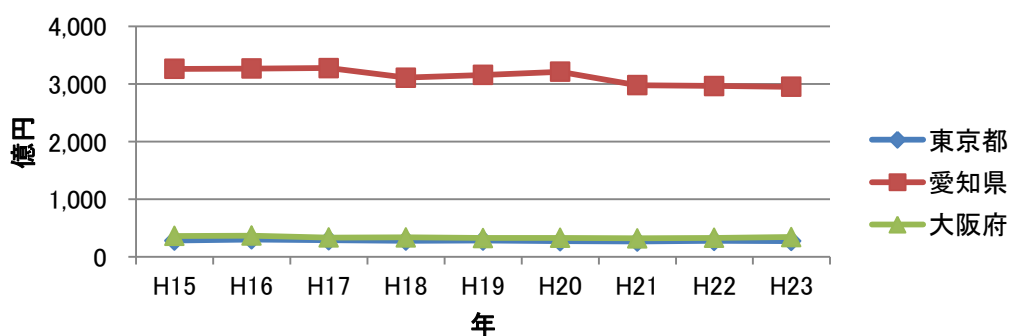
(農業)

- ・ 愛知県の農業総産出額 (2,948 億円、平成 23 年) は全国 6 位であり、東京都 (同 47 位)、大阪府 (同 46 位) に比べて高い。
- ・ 愛知県の農業産出額を品目別に見ると、野菜、花きの割合が高い。

農業総産出額の上位都道府県 (平成 23 年)



農業総産出額の推移 (上) と愛知県の品目別構成比 (平成 23 年、下)

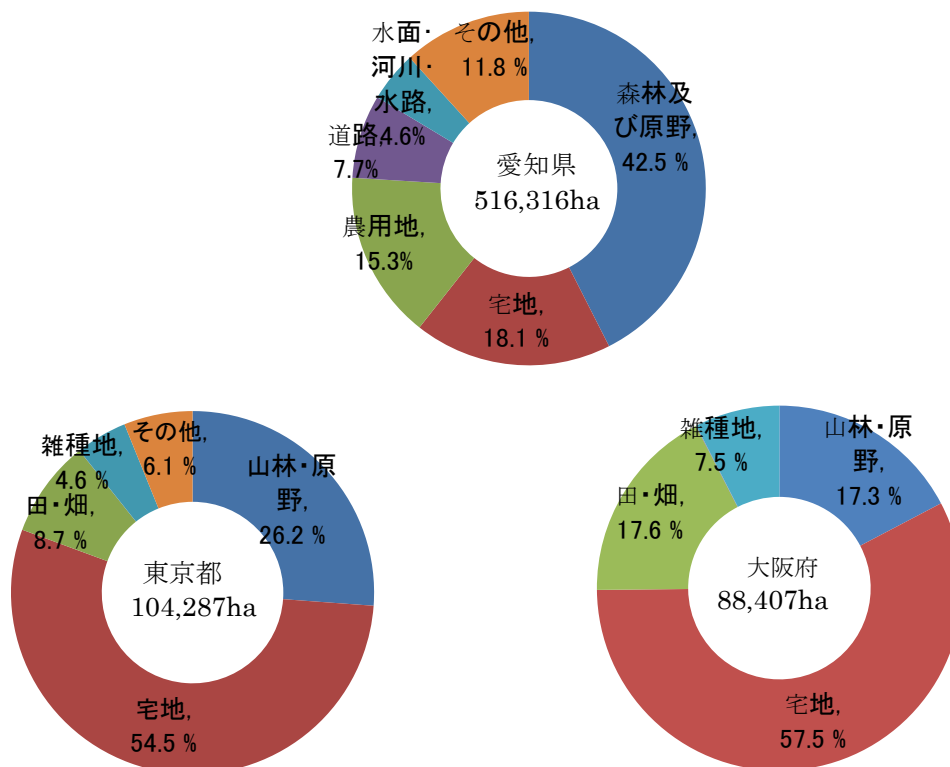


(出典：生産農業所得統計(農林水産省))

(3) 土地利用

- ・ 愛知県の土地利用の推移を見ると、農用地は減少、宅地は増加傾向にある。

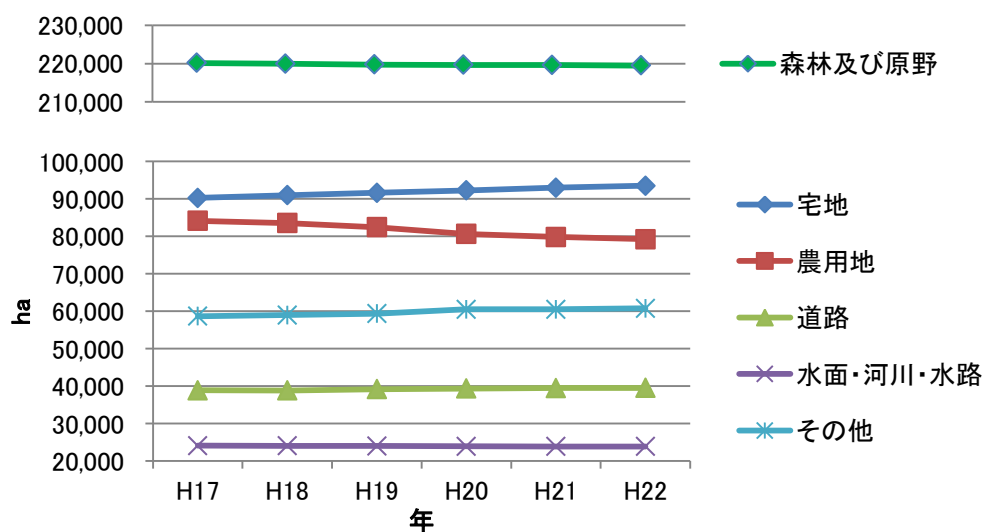
地目別土地利用状況面積の構成比（平成 22 年）



※東京都及び大阪府は、固定資産税の課税対象となる土地面積のみ。

(出典：愛知県統計年鑑、東京都統計年鑑、大阪府統計年鑑)

愛知県の土地利用状況の推移



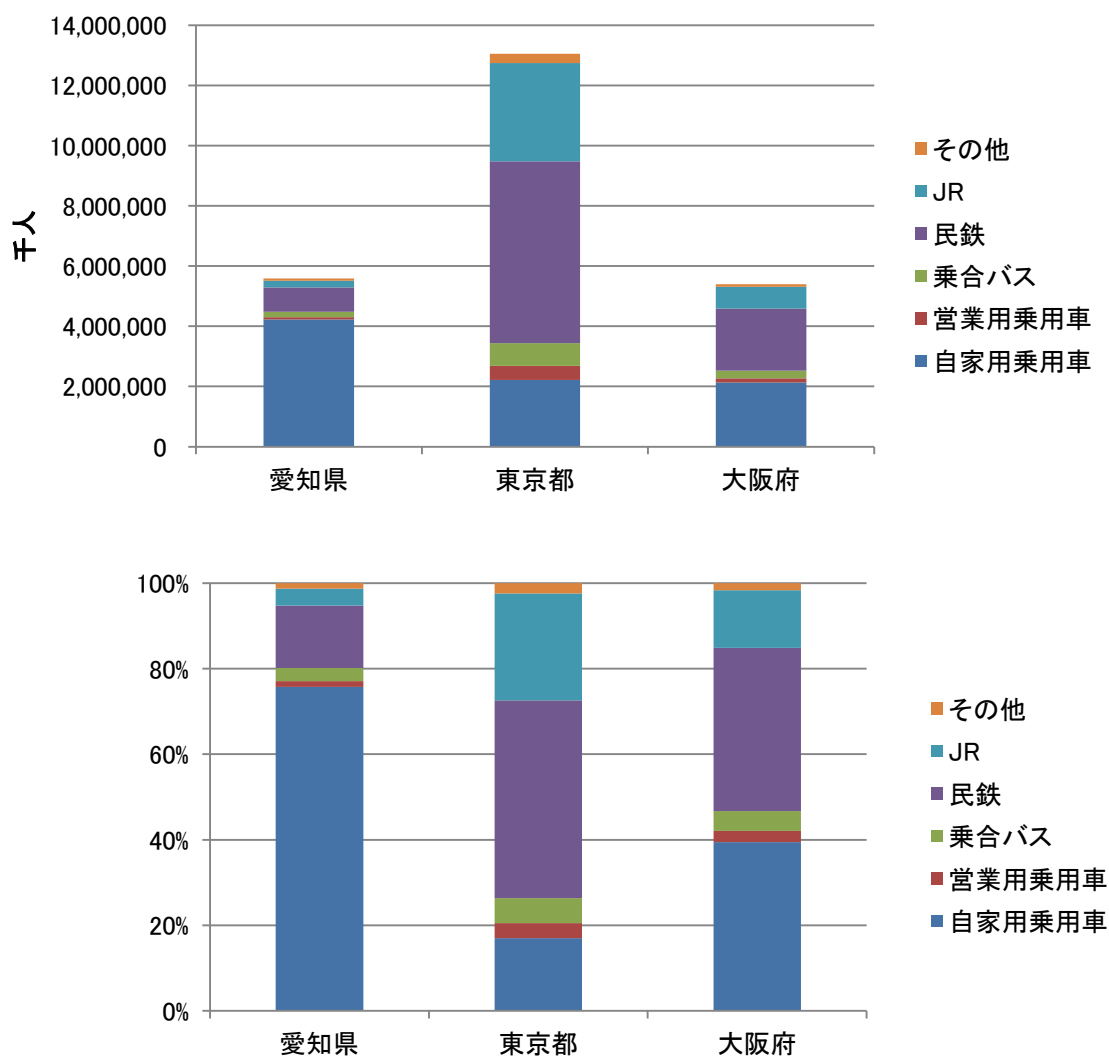
(出典：愛知県統計年鑑)

(4) 交通

(旅客輸送量)

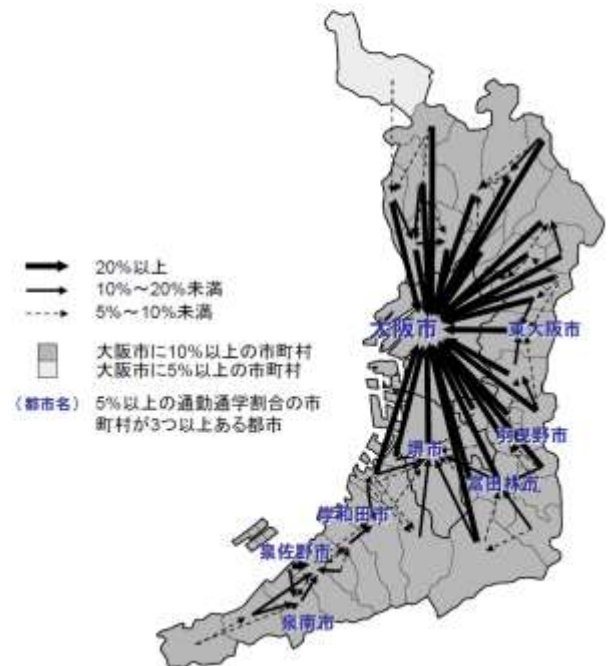
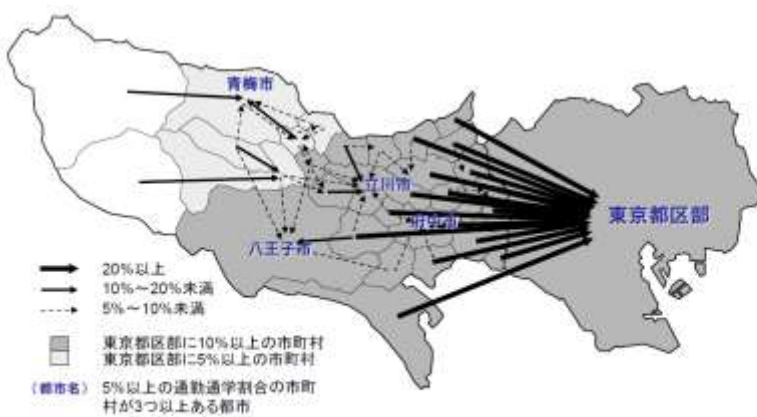
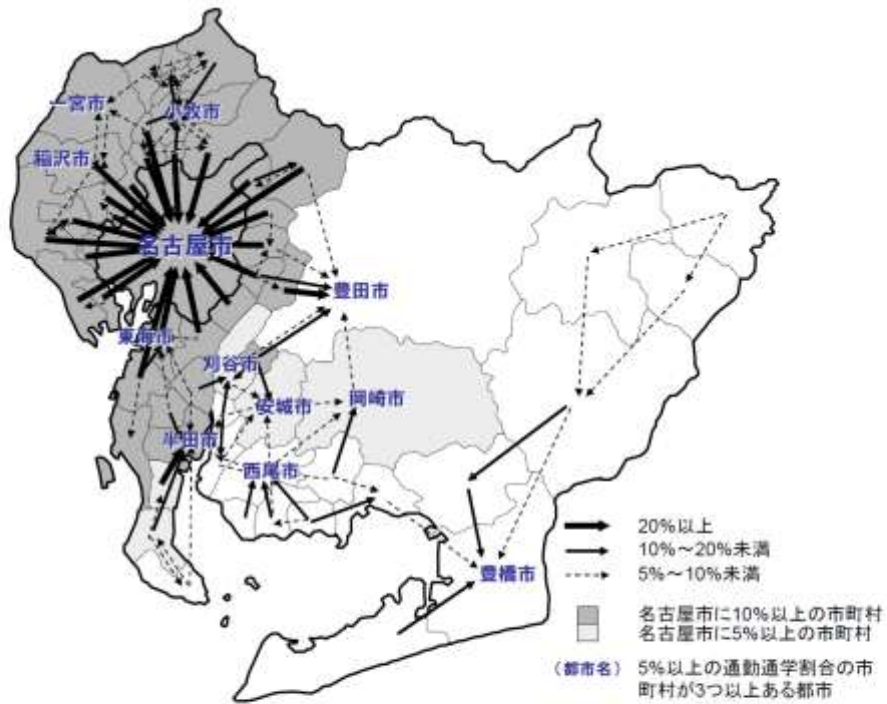
- ・ 愛知県の実機関旅客輸送人員（55 億 8,414 万人、平成 21 年度）は、東京都の 4 割強、大阪府とほぼ同量であり、東京都、大阪府に比べ自家用乗用車による輸送量割合が高い。
- ・ 東京都、大阪府では、都区部、大阪市への集中傾向が強く、公共交通機関の利用割合の高い地域が都府下に広がっているのに対し、愛知県では名古屋市への集中傾向が弱く、拠点都市が分散しているため、自家用車の利用割合の高い地域が広く見られる。

輸送機関別旅客輸送人員（上）と分担率（下）（平成 21 年度）



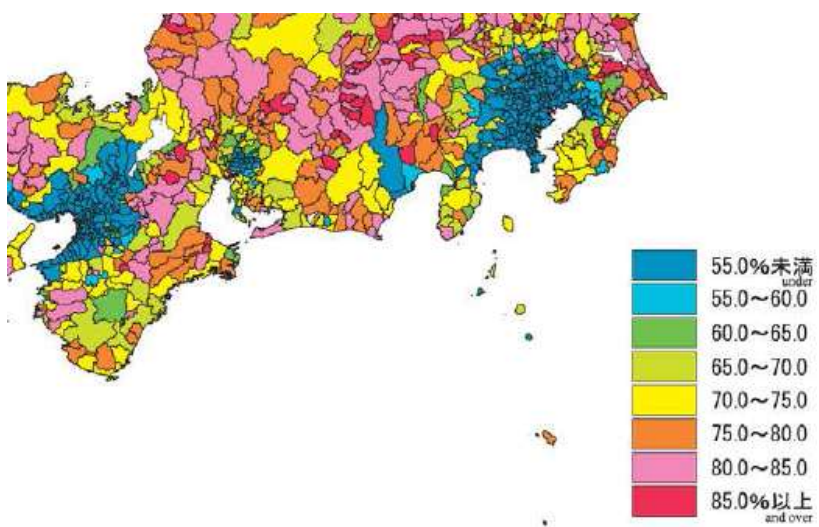
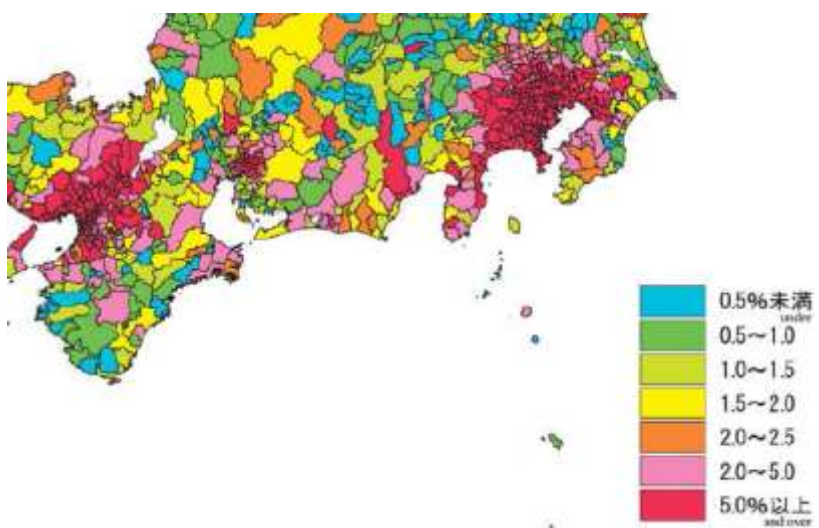
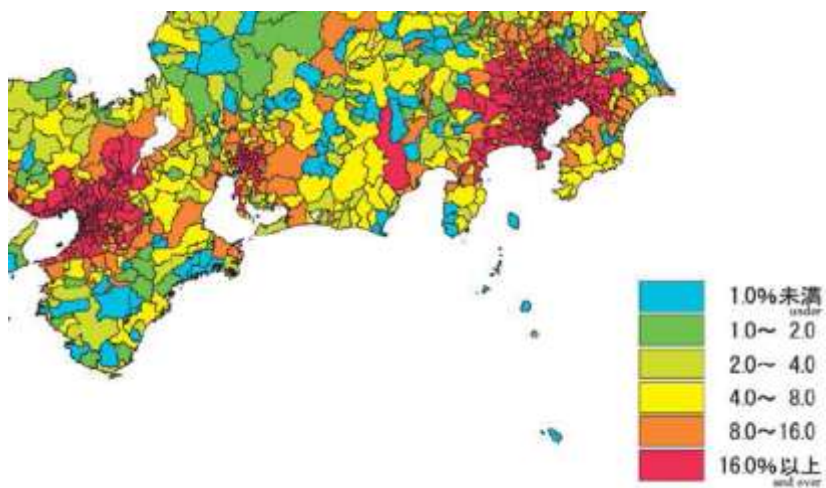
(旅客地域流動調査 (国土交通省))

愛知県（上）、東京都（下左）、大阪府（下右）における
通勤・通学割合（平成 17 年）



(出典：中京都構想具体化検討基礎調査報告書(愛知県企画課))

通勤・通学に
鉄道・電車（上）、乗合バス（中）、自家用車（下）
を利用している者の割合（平成 22 年）

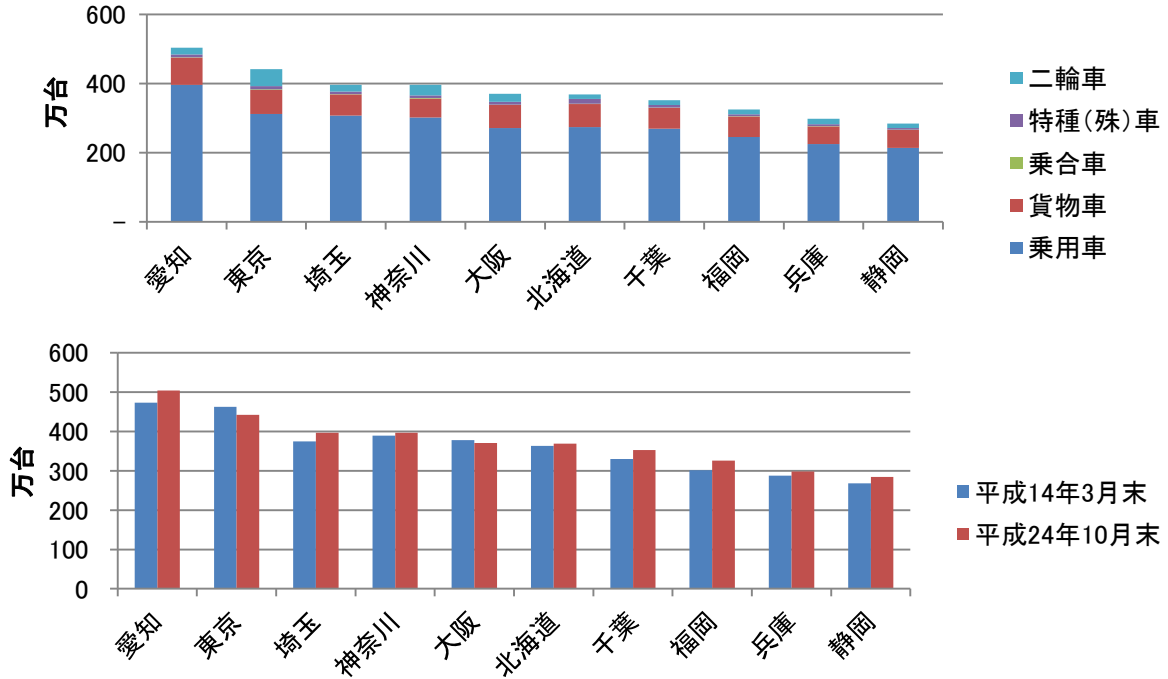


(出典：日本統計地図(総務省))

(自動車数、交通量、走行量)

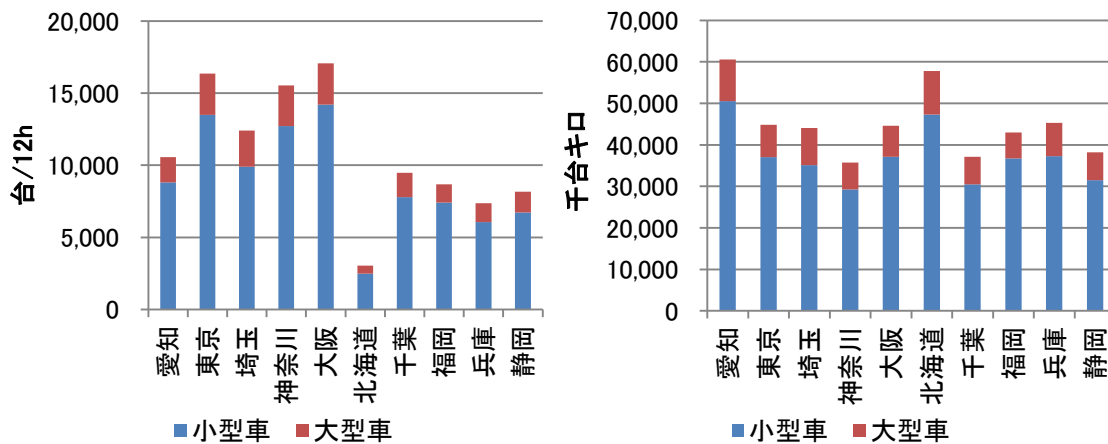
- ・ 愛知県の自動車保有台数（504万台、平成24年）は全国一であり、2位の東京都より約50万台多い。10年前の保有台数と比較すると東京都、大阪府は減少したが、愛知県は約30万台増加した。
- ・ 愛知県は、東京都、大阪府に比べ交通量は少ないものの、走行量が多い。

自動車保有台数（平成24年、上）及び10年前の台数との比較（下）



(出典：(財)自動車検査登録情報協会 HP)

一般交通量調査における12時間平均交通量（左）と12時間走行台キロ（右）（平成22年）



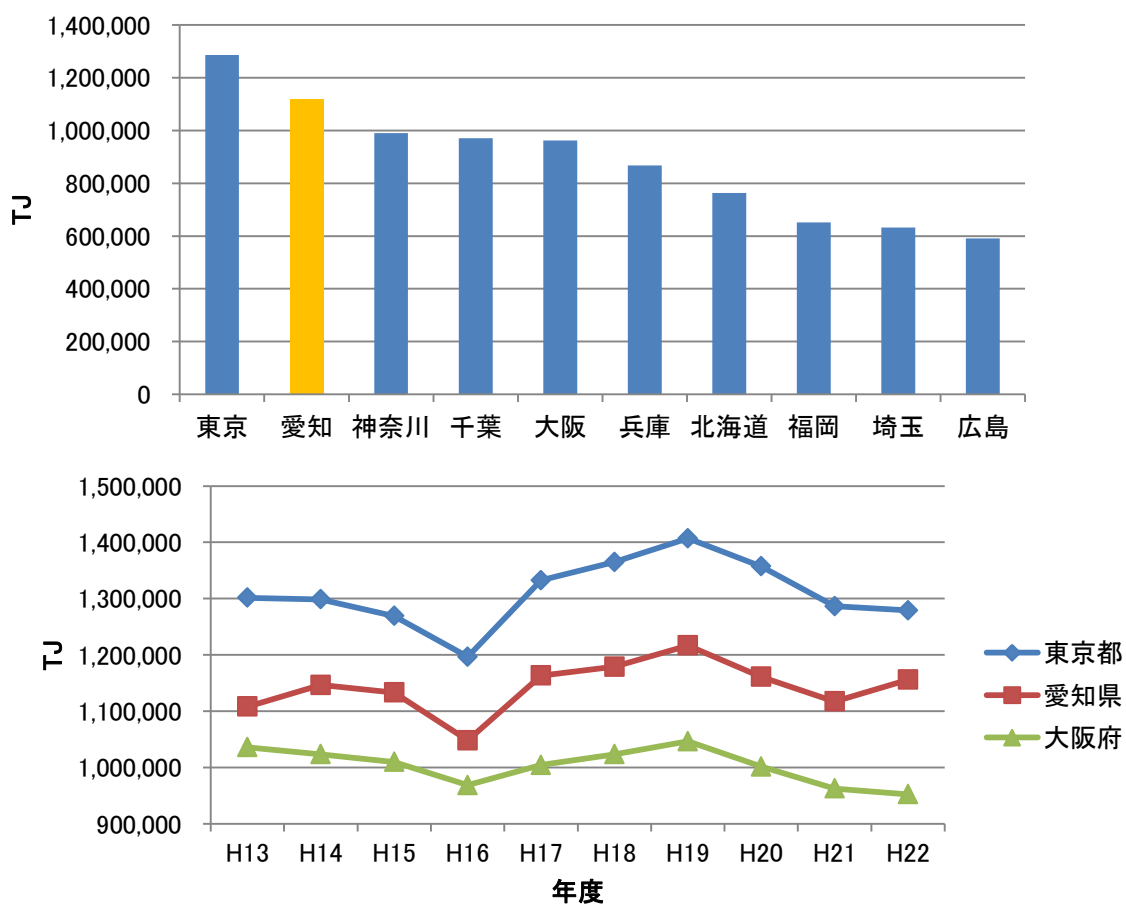
(出典：道路交通センサス(国土交通省))

(7) エネルギー

(エネルギー消費量)

- ・ 愛知県は、東京都に次ぐエネルギー消費県である。経済低迷により減少傾向にあったエネルギー消費量は、増加に転じている。
- ・ 東京都、大阪府では民生部門で多くのエネルギーが消費されているのに対し、愛知県では産業部門・製造業のエネルギー消費量が多い。

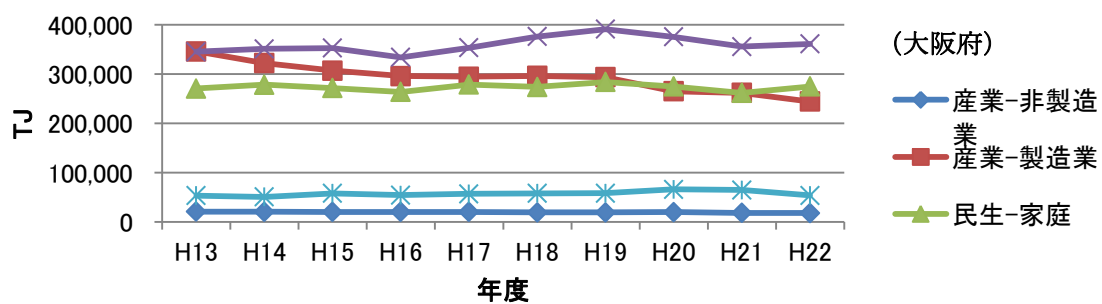
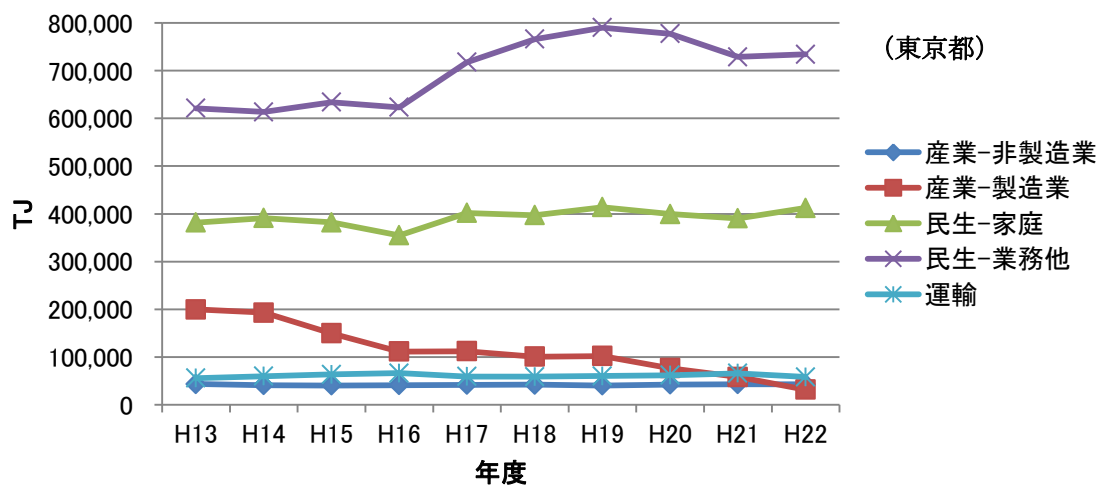
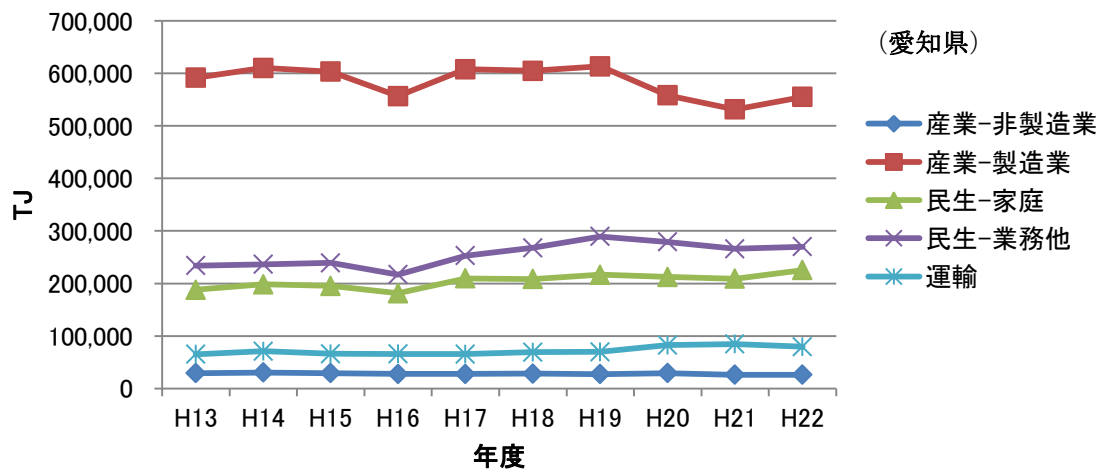
エネルギー消費量の上位都道府県（平成 21 年度、上）と
エネルギー消費量の推移（下）



注)平成 22 年度は推計値

(出典：都道府県別エネルギー消費量統計(資源エネルギー庁))

産業・民生・運輸別エネルギー消費量の推移



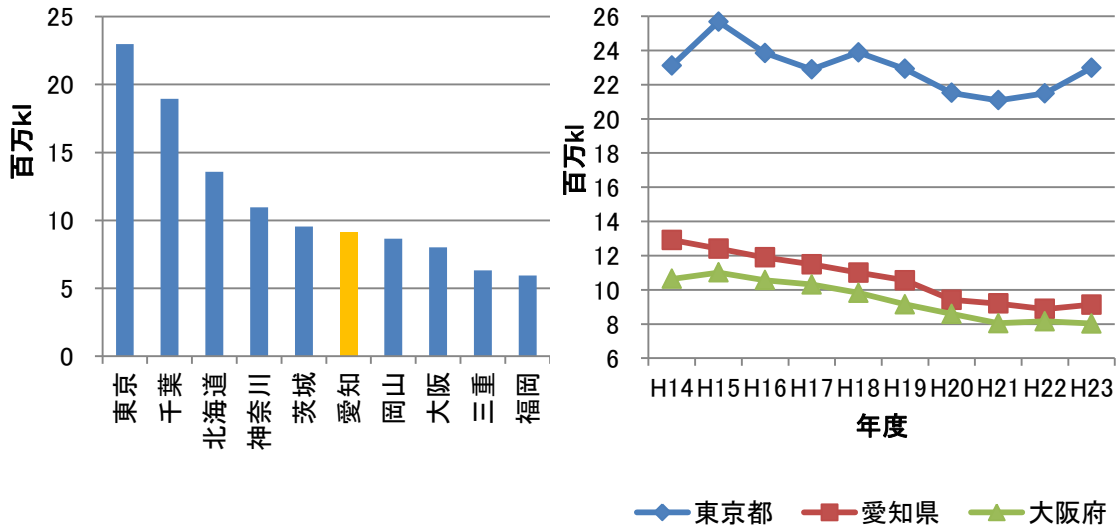
注)平成 22 年度は推計値

(出典：都道府県別エネルギー消費量統計(資源エネルギー庁))

(石油製品)

- 愛知県の石油製品販売量は全国 6 位で、平成 22 年度まで減少が続いたが、平成 23 年度に増加した。

石油製品販売量の上位都道府県（平成 23 年度、左）と推移（右）

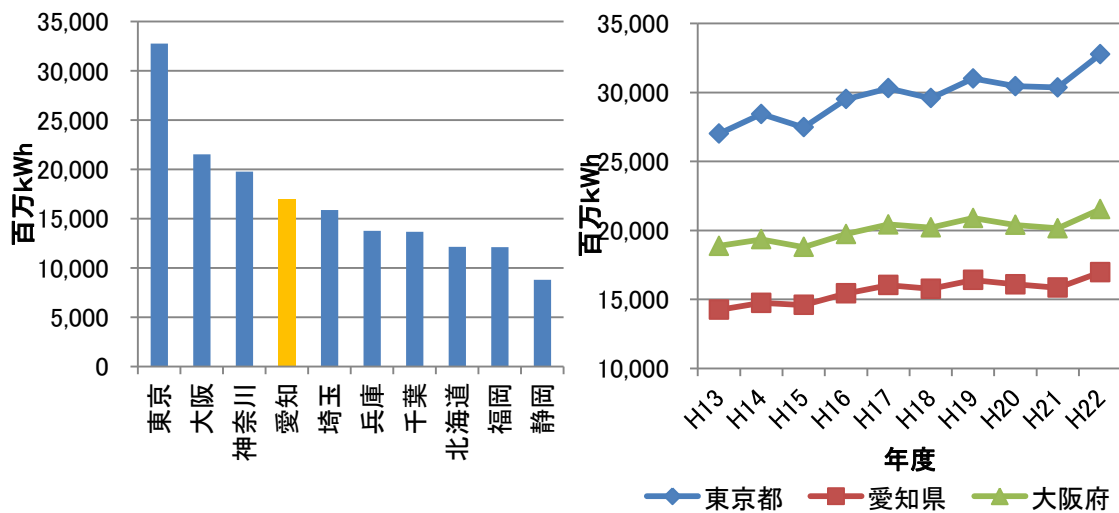


(出典：経産省生産動態統計、資源・エネルギー統計年報(資源エネルギー庁))

(電力)

- 愛知県の使用電力量は全国 4 位で、徐々に増加している。

使用電力量の上位都道府県（平成 22 年度、左）と推移（右）

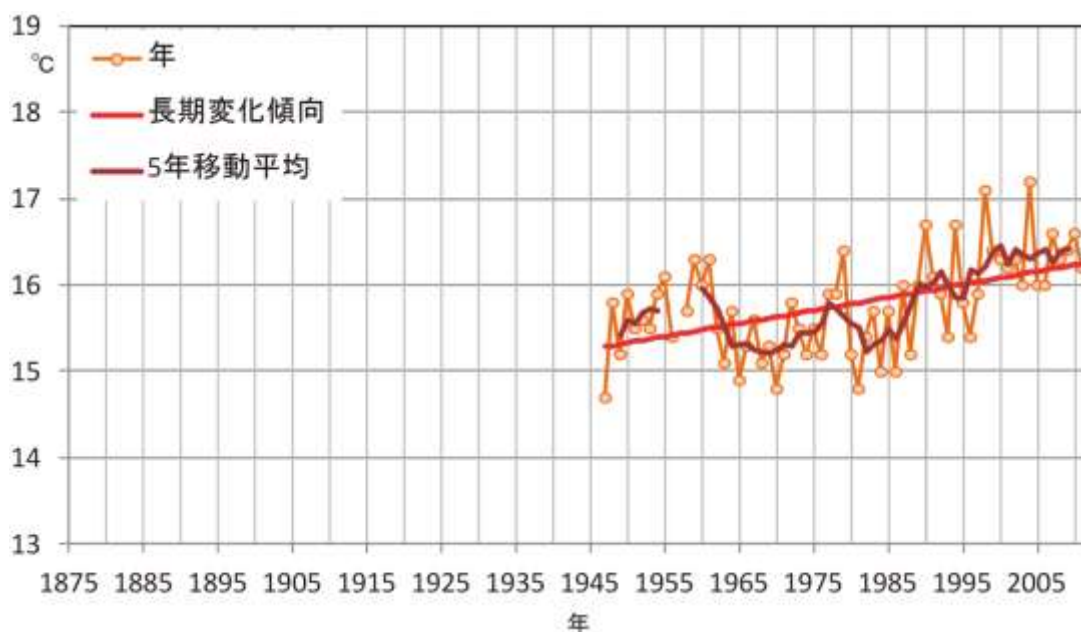
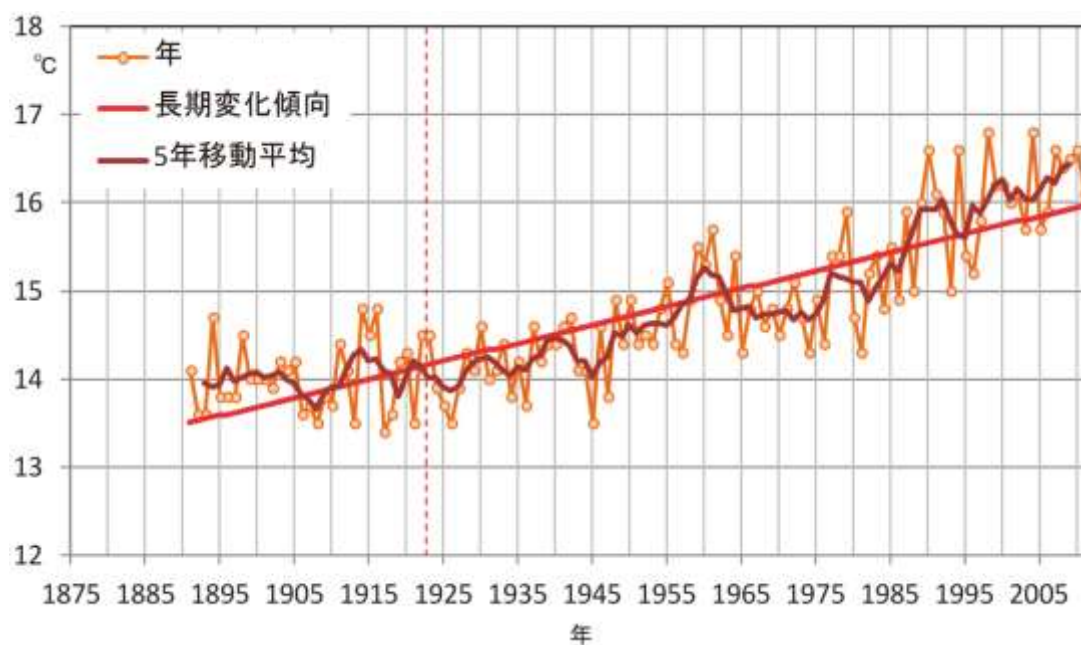


(出典：電気事業連合会 HP)

(6) 気象

- ・ 愛知県内の名古屋市（名古屋地方気象台）及び田原市（伊良湖特別地域気象観測所）における観測結果によれば、年平均気温は長期的に有意な上昇傾向（名古屋：100年あたり2.05℃、伊良湖：50年あたり0.76℃）を示している。
- ・ 年降水量については、有意な減少傾向が見られる。

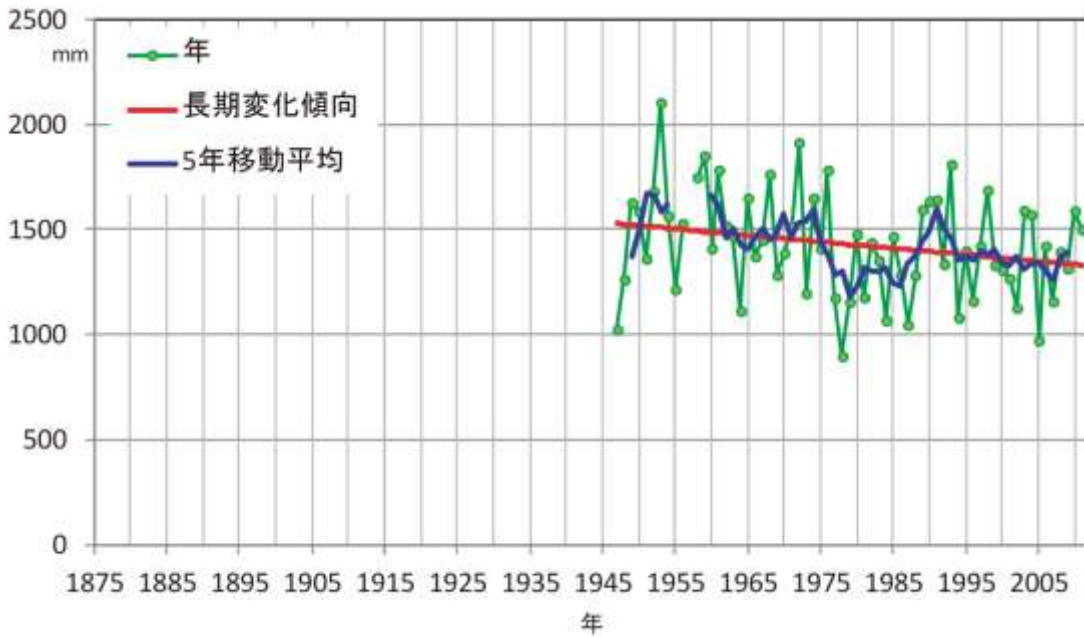
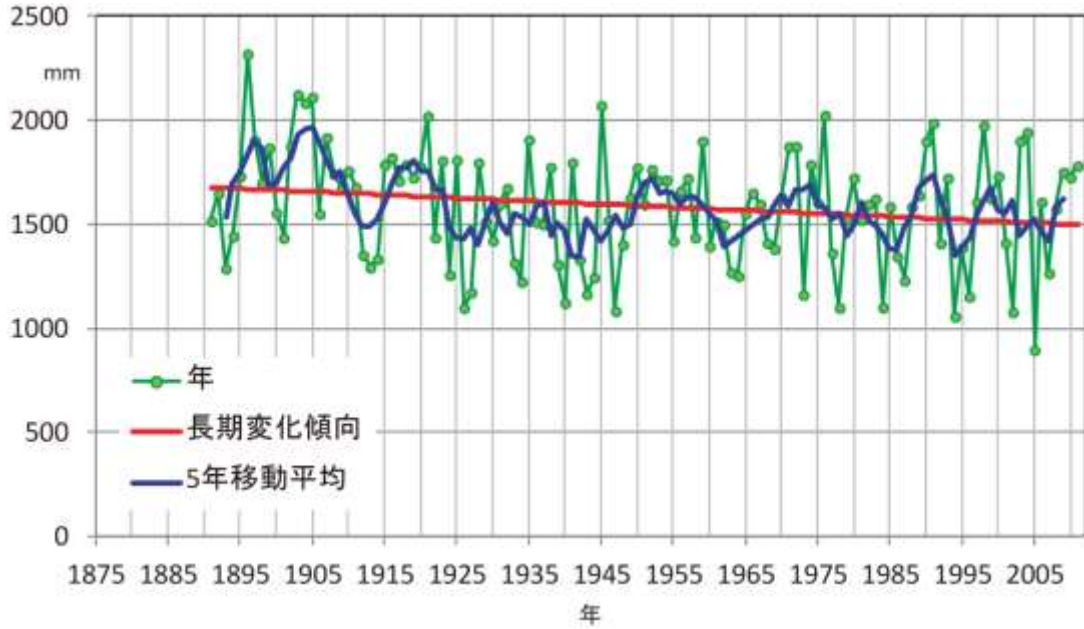
年平均気温の経年変化
名古屋地方気象台（上）、伊良湖特別地域気象観測所（下）



(出典：気候変化レポート 2012(気象庁東京管区気象台))

年降水量の経年変化

名古屋地方気象台（上）、伊良湖特別地域気象観測所（下）



(出典：気候変化レポート 2012(気象庁東京管区気象台))